

Japan (スタンダード・ウイズ・ウクライナ・ジャパン)」。広場には、ウクライナの国旗と、「PEACE (平和)」の形にLED キャンドルが置かれ、花や明かりを持った人たちが様

PEACE

渋谷 ウクライナ

いい、「早く戦争が終わってほしい」と力を込めた。同グループは十日午後二時半～五時、東京・新宿駅南口でウクライナ支援のデモも予定している。
(加藤益丈)

東京福祉大ウクライナ人英語講師

ロシア軍の侵攻によってチェコに避難しているウクライナ人英語講師のテチアナさん(仮名)が、所属する東京福祉大学(本部・群馬県伊勢崎市)の学生に向けたオンライン授業の準備を進めている。母国にいつ戻れるかわからない避難先で、暮らしを支える講師としての仕事「私にとって大切な支援になっている」という。

(佐藤航)

授業届ける 避難先でも

住んでいたウクライナの首都キーウ(キエフ)を逃れ、チェコにたどり着いて約一カ月。オンライン取材に応じたテチアナさんは現在、長男(二)と三人の家族とともに、知人が紹介してくれたチェコ・プラハ近郊の家に身を寄せている。

故郷には連絡を取れなくなった知人もいる。「ほっとできる時間はない」。それでも、今月下旬から始まるオンライン授業の準備を淡々と進めている。「言葉も通じない避難先で仕事を見つけるのは

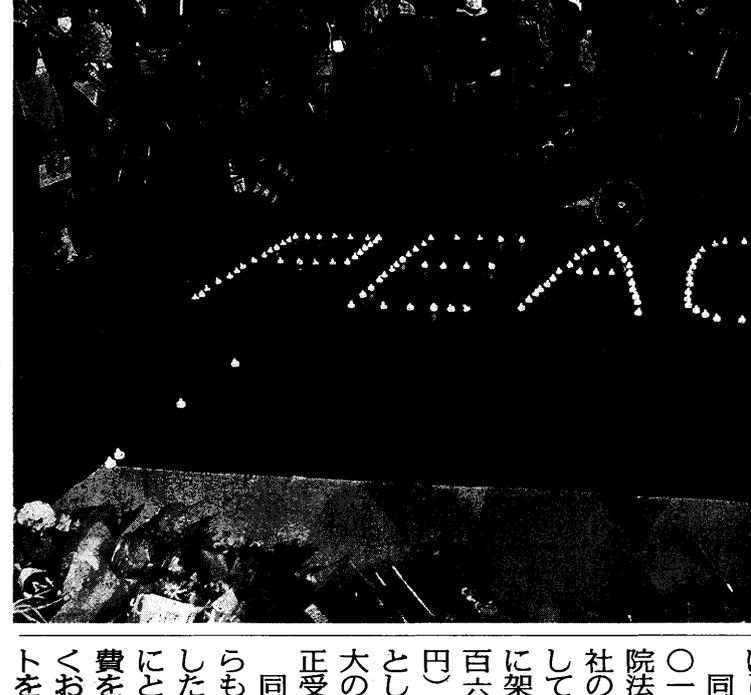
チェコからオンライン

大変。大学の仕事のおかげで、私たちは生活できている」
母国で日本語や英語を学んでいたテチアナさんは二〇一九年に来日し、東京福祉大で英語や留学生向けに日本語などを教えるようになった。

二〇年秋にいったん帰国した後、新型コロナウイルス禍で再来日が難しくなり、キーウでオンライン授業を続けてきた。

いずれ日本に戻るつもりだったところに、ウクライナへの侵攻が始まった。最初の十日間は頑丈な建物の地下で過ごし、電車とバス、歩きで五日間かけて西隣のポーランドに避難。その後、知人のつてを頼ってチェコに移った。

テチアナさんは授業で多くを語るつもりはないというが、日本の若者に理解してほしいことがある。「ロシア側の報道は『ウクライナに平和をもたらすため』と言いが、そんなことは全くない」。フェイクニュースが飛び交う中、正しい情報で正しい判断をする大切さを知ってほしいと願う。



にいたと発表された。七七日
同社によると、社員は二〇一五年四月から九大大学院法学研究院に出席し、同社の寄付講座の客員教授として勤務。二年八月まで架空や私用の交通費約五百六十件(計約百五十万円)を同社に請求し、経費として受け取っていた。九大の研究費でもこうした不正受給をしていたという。

同社は進藤卓也編集局長らもけん責や戒告の処分とした。「社員が会社の経費にとどまらず、大学院研究費を不正受給したことを深くお詫びする」とのコメントを出した。

総務省接待 検審申し立て

12人不起訴 市民団体「究明を」

菅義偉前首相の長男が勤めていた放送事業会社「東北新社」による総務省幹部らへの接待問題で、収賄容疑などで告発された元総務審議官ら十二人の不起訴処分を不服として、市民団体が八日、検察審査会に審査を申し立てた。市民団体によると受理された。

申し立てた「検察庁法改正に反対する会」は東京都内で記者会見し、岩田薫共

同代表(仮名)は「職務権限に絡む接待の真相を司法の場で明らかにするため、市民の代表たる検審の議決に期待したい」と話した。

不起訴となったのは菅前首相と、谷脇康彦元総務審議官ら同省幹部七人、菅氏の長男正剛氏ら東北新社関係者四人。東京地検特捜部は先月二十九日、十二人を嫌疑不十分と嫌疑なしで不起訴としていた。

三月二十五日
二〇一〇年の確
状況の変化を踏
の影響は軽減し
閉め切りの公
た」とし、国側
干拓を巡る法
化し「開門」「
反する司法判断
裁は別訴訟で既
持しており、今
が維持されれば
求める開門実現
になる。

★神奈川の石綿
建設現場でア
綿)を吸い健康
神奈川県の元労
建材メーカーに
めた第二陣の訴
が原告六十二人
千百万円を支払
最高裁第二小法
裁判長)で成立
が発表した。

昨年五月の最
つき、国と原告
本合意に沿った
第二陣訴訟では
責任も、一部
定した。弁護団
責任を追及する
日に各地で追加
走たとしている
肺がんを患っ
子さん(仮名)は和
京都市内で記者会
旗張ってきた仲
ることなく、亡